

SNSにハマった女子中学生の自立

20**年、昨今の課題である。小学5年生の2学期からで不登校になり、小学6年の1月に相談を受け対応した。詳細な成育歴と親子の心理テストから、コロナ禍も加わって思春期心性（友人関係）と学力不振とその素因を分析、対応した。3月に再登校を果たし、翌4月に中学1年生になった女子生徒の話である。

両親がこの子の対応に困り果て、10月上旬に再び相談に来られた。聞くに、夏休み直前から部屋に籠りっぱなしで風呂も入らず、部屋から発する匂いから部屋もごみ屋敷状態と言う。毎日、着替えと食事、おやつに菓子類をスマホで要求され、毎回部屋の前に置く。スマホでの指示でドアの前に置かれた衣類と食器を取りに行く。部屋は支え棒か机で入口を塞ぎ、中に入れないと言う。

順調に中学校に進学し、楽しい学校生活を送っているとばかり思っていただけに、驚いた。中学校に進学し毎日登校していたため、みんなが持っているから私もと要求され、母親名義のスマホを渡した。ところが、6月の定期試験の主要5教科を受けず欠席。漢字の宿題をやっていないことを理由に、1学期末3日間も欠席した。通信記録を調べると、6月頃からグループラインやInstagram、ユーチューブなどにハマり始めた様子が分かった。夏休みに入ると完全に昼夜逆転の生活になった。夏休みの宿題のサプリの数学は、全くやっていない。当然、他の教科の宿題も手を付けていない。グループラインは夜中に書き込むのは彼女だけだったが、書き込み続けた。2学期になり、グループラインに参加している友達みんな登校したが、彼女だけ朝方寝るため登校できなかった。

10月下旬、両親と提携する寮のスタッフを交えて話し合った。ご両親はこれ以上なすすべがないと言われたため、彼女は家を出て寮生活で自立を果たすことを確認した。そして11月1日12時、寮のスタッフ3名と共に彼女の家を訪れ、ご両親の同意の元、寮の女性スタッフが彼女の部屋を強引に開け、話し合いを始めた。途中、両親も加わり、彼女と話し合った。1時間半余り後、彼女の要請で両親と交代で、私も彼女の部屋に入った。まさしくごみ屋敷だった。菓子類のごみで床は覆い尽くされ、彼女の机には教科書や副教材、ノートが乱雑に置かれていた。私は座る場所もなく、入口に立ったまま話し合いに加わった。彼女は泣きながら、「ひげぐま先生も、私は寮で生活を立て直した方がいいと思いますか？」と問われ、「この状態を見ればそれしかないと思う。こちらの寮のスタッフに君をお願いしたいと思う。」と答えた。彼女はようやく決意し、寮に向かうための準備に入り、私は彼女の部屋を出た。彼女は1時間ほどかけて風呂に入り、その間両親は彼女の寮生活のための身支度をした。

寮での生活は、朝6時起床でラジオ体操、水曜日は朝食当番で、他の日は農作業、7時15分朝食。8時から寮と自室の清掃で、9時から1時間散歩か寮生ミーティング。10時の朝礼後、50分2コマの学習。12時5分から昼食、休憩。週3日、13時から再び50分3コマの学習と、16時から運動や班活動。17時から自由時間になり入浴をすます。週3日夕食当番もある。18時15分から夕食。19時から30分日記を必ず書く。19時半から食堂で自由時間を

過ごす。彼女は自らの意志でスマホは持ち込まず、その都度テレビか洗濯を予約して過ごした。21時に自室に戻り、21時半には消灯となる。土日祝日は、学習時間が食事当番か土曜のみ食材の買い出し、あるいは寮外の清掃になる。集合ごとに点呼・挨拶が行われ、健康状態の確認も行われる。この間毎月、当該中学校の出席認定を受けた。寮生活の様子は、寮のスタッフから毎月報告を受けた。すぐに寮の仲間とも打ち解け、勉強も分からないところは寮の先輩に教えてもらい、農作業や班活動も楽しくこなしているとのことだった。ご両親も毎月彼女の様子を伺いに訪れた。毎日の規則正しい生活が彼女を立ち直らせた。

翌年3月、5カ月の寮生活で彼女はSNS依存の生活から脱却したが、内科的治療が残り、5月連休後に当該中学校の再登校を果たした。